

# リカバリーサポート・ネットワーク 電話相談事業概要

特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク  
代表理事 西村直之

特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)が、ばちんこ依存問題に特化した電話相談窓口を開設してから5年が経ち、相談件数の総数は5000件、相談者数は4000人を超えた。

2010年度(2010年4月～2011年3月)は、1185件の電話相談が寄せられた(表1)。相談件数は、前年より約10%減少し、月平均で98.8件だった。2009年度までは、相談窓口啓発ポスター貼付の協力店舗の増加や、遊技関連団体や遊技情報提供サイトのホームページのリンク、セミナー開催などを通して知名度の向上など効果によって相談件数が増加してきたが、東日本大震災などによる遊技参加者数の減少の影響により、2010年度は相談件数が減少した。なお、この一年で新たに952人が相談につながった。

## 2010年度リカバリーサポート・ネットワーク電話相談事業概要

表1 総件数と月別相談件数(単位:人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2006年度	110	102	82	86	119	90	87	57	38	93	54	71	989
2007年度	72	68	52	50	86	93	72	56	33	46	63	175	846
2008年度	103	114	90	113	98	94	92	83	85	95	108	112	1187
2009年度	128	128	128	124	112	120	103	79	71	70	115	127	1305
2010年度	117	133	125	93	95	120	113	87	66	68	79	89	1185
総計	530	545	477	466	490	517	467	362	293	372	419	574	5512
平均	106	109	95.4	93.2	98	103	93.4	72.4	58.6	74.4	83.8	115	1102

■過去5年間の特徴  
・春(3月～5月)が多く、夏～秋にかけて減少し、冬(12月～2月)は少ない。  
・ホール利用者数の変動と関係があると推測される。  
・2007年3月は全国紙新聞掲載の影響である。

■2010年度の特徴  
・1カ月の平均件数は98.8件。  
・7月、8月の相談件数が少なめ。  
・3月の相談件数が少なかった。  
・地震の影響で東北・関東からの相談件数が激減したため。

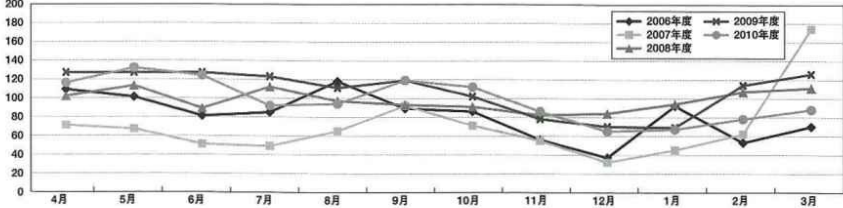


表2 コーラーの立場(単位:人)

年度	本人	家族・友人	ホール関係者	援助者	不明・拒否	総計
2006年度	378 (46%)	422 (52%)	2 (0%)	8 (1%)	6 (1%)	816
2007年度	351 (52%)	314 (46%)	0 (0%)	8 (1%)	4 (1%)	677
2008年度	678 (68%)	293 (30%)	1 (0%)	12 (1%)	0 (0%)	984
2009年度	721 (72%)	286 (28%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	1008
2010年度	685 (72%)	263 (28%)	1 (0%)	3 (0%)	0 (0%)	952
総計	2813 (63%)	1578 (36%)	4 (0%)	32 (1%)	10 (0%)	4437

■過去5年間の特徴  
・本人の割合が増加した。  
(2006年46%、2007年度52%、2008年度68%、2009年度72%)  
・これは、RSNが本人をターゲットにした啓発方法を採用してきた成果といえる。

■2010年度の特徴  
・本人と家族・友人の比率は2009年とほぼ同じで7:3だった。

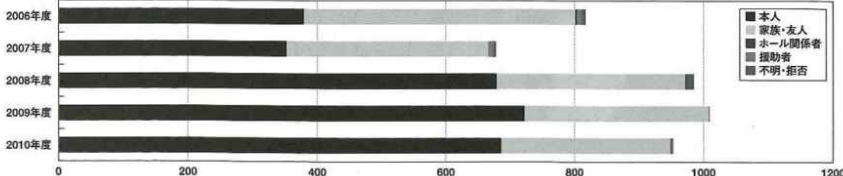


表3-1 コーラー年齢(単位:人)

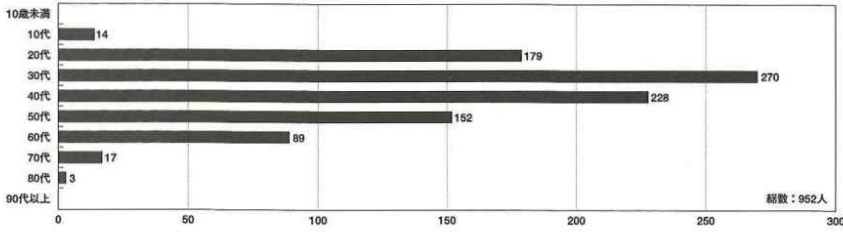
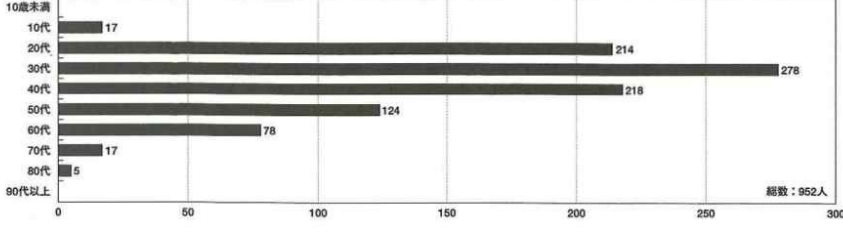


表3-2 対象者年齢(単位:人)



決の方法を考え、問題解決に取り組んでいけるようにアドバイスを積極的に行うことが多くなっている。相談者の

問題解決能力を引き出すことに力点を置き、地域社会資源の情報提供を主としたサービスから変化させつつある。

2011年度からは、新たに「収入形態」の情報の集積を追加している。画一的ではなく、個々の相談者の二

ズに沿った質の高い相談対応ができるよう、今後も情報を集積しながら検討を重ねていく予定である。

向上が、徐々に現れてきていると思われる。  
相談の内容は、「やめ(させ)る方法」が最も多く、次いで「家族の接し方」、「地域の相談先」であった。借金の返済方法などの相談は、年々減少しており、相談者のほとんどは、依存問題の相談電話であることを認識し、相談してきている。相談者の71%は、相談経験がなく、RSNの電話相談がはじめての相談経験であった。

RSNは広報の主体を、ホールの協力による相談窓口告知ポスター貼付としており、相談件数はポスター貼付店舗数とホールの利用者動向と連動した動きを示している。相談件数の60%がポスター経由であり、問題当事者(以下本人)からの相談で、76%がポスター経由であった。インターネット経由も徐々に増加しており、ホームページの更新や携帯電話用のホームページ開設などにも力を入れていく。相談者の72%は本人(家族・友人28%)であり、依存関連問題の相談機関としては、きわめて高い本人比率を維持している(表2)。

電話をかけてきた相談者の性別は男性36%、女性44%であった。対象者(問題を持つている人)の性別は男性73%、女性27%で、相談につながる(問題を持つ)本人は男性が多く、家族・友人は女性が多かった。対象者の男女比の変動はなく、男女比は、遊技参加の男女比と相似している。対象者の51%に借金があった。

年齢分布では、相談者・対象者ともに30歳代が最も多く、40歳代、20歳代、50歳代と続いた(相談者、対象者ともに)。30歳代の相談が全相談件数の28%にのぼり、20歳代・30歳代を合わせた、相談の47%を占めていた(表3)。若年成人層の問題は、子どもの放置事故・事件の原因となり得る重大な問題である。

のめりこんでいる機種では、ばちんこ57%、スロット15%、両方25%であり、一般ユーザーの参加比率と相似している。のめりこみ問題は、機種によらず一定の比率で発生している可能性がある。貸玉の種類では、通常56%

低貸玉8%、両方22%であった。全体の30%が低貸玉を利用していた。のめりこみ問題を持つユーザーが、一時的に低貸玉に移行しており、低貸玉ユーザーのなかにも、のめりこみ問題を持つ人が多数存在している。

遊技頻度は「ほぼ毎日」が最も多く、42%にのぼった。一般のユーザー平均から見ても、毎日の参加はのめりこみの兆候と考えるとよいであろう。しかし週1～2回であっても相談につながるユーザーが23%おり、遊技参加頻度だけで問題の軽重は図りにくい。1回の遊技時間は、「3時間以上」が67%(6時間以上30%であった。過度の時間の消費も、のめりこみ問題のひとつである。1カ月の遊技費は、月5万円以上が59%、20万円以上が14%で、一般的なユーザーよりも明らかに高額な傾向が認められた。問題キャンプリンクの簡易評価法であるSOGS簡易版では96%が問題あるキャンブラーのレベルであった。

相談の「転帰」では、問題化してから1～2年の比較的若い相談者が多いことから、まずは相談者自身の問題解